

御用とお急ぎではないかたに
白鳥のローマ字表記について

玉 田 誠

白鳥ニュース第9号 { 1990 (H 2) 年 4 月 } に「ハクチョウをローマ字ではどのように書くか……
HAKUCHOと書きOを伸ばすのか、それとも HAKUCHOU と書いて最後にUを付けるのか？」
と言う質問についてのやり取り」が掲載されていて大いに ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ?
興味を持ったが、特に「チョ」をCHOとつづつてあるこ ? ?
とに注意が向いた。さらにオオハクチョウはどう書く、の ? O H A K U C H O ?
かと前列に倣って ŌHAKUCHO OUHAKUC ? ?
HOU などと綴ってもみた。 ? O M O R I ?

日本ではオオハクチョウ、英国では WHOOPER ? ?
SWANN, 韓国では 큰부리 と書く訳だが、大抵はその次 ? R I K K I O ?
に (Cygnus cygnus) の学名を記載するから敢えてローマ ? ?
字で書く必要性は無いとも考え、今どうあってもローマ字 ? K A K K O ?
書きが必要なら「早い者勝ち・先手を打つ・先鞭をつけ」 ? ?
る式で日本白鳥の会が「こう表記する」と内外に宣言すれ ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ? ?
ば、爾後その表記が行なわれるであろうと結論づけた。

然し別の観点から見るとローマ字で表記する必要性が全く無い訳ではない。時には論文や報告書を英
文で書くことがあり、そのとき困るのは人名・地名・山川名等の固有名詞である。シーボルトもモース
も、下つては日本人学者等もそのローマ字表記の必要性を痛感したに違いない。E. S. モースは大森貝
塚の発見 (1877 - M10) で有名な人であるが、貝塚は Kitchen midden と書けたであろうが「大森」
を Big - forest 又は (Wood) 等とは書かなかつたであろう。発音どなりに Ōmori 又は Oumori
と表記したのであろうか？

ローマ字で日本語を表記した最初のもは渡来物で、1549年キリスト教の本を日本語に訳し、それを
ローマ字で書き表わした物であつたという。有名な J. C. ヘブバーン (ヘボン) の「ヘボン式」ローマ
字表記は1867年頃であるというから年代的に見て前出のモースは「大森」を Ōmori と表記したのかも
しれない。

この「ヘボン式」に不満を持つ人々 (田中館愛橋博士など) が会い集い「日本式」というローマ字表
記を作つたのは1905 (M38) 年頃である。此の「日本式」は随分熱心に普及を計つたと見え、私の手元
に財団法人・日本のローマ字社が1938 (S13) 年 9 月 18 日に発行した Netu oyobi Netu - Kikwan
(熱及び熱機関) という本がある。昭和19年 9 月 18 日に日本橋の丸善で購入しているのだが、A 4 版 238
頁というボリュームに圧倒されたのか25頁当たりまでしか目を通していない。何でこのような本を買い
込んだのか、多分「田中館愛橋」先生の知名度に幻惑されてのことであろう。(昭和19年 9 月といえ
ば終戦の11ヶ月前のことである)

以上の二者は民間の個人や団体が作つた表記法であるが、その中間期の1889 (M22) 年に文部省は小

学校用にローマ字掛け図を作って配布したという。

年を追って高まる必要度に応じてか政府が7年掛りでまとめた表記法が1937(S12)年に発表された。内閣訓令で発表されたので「訓令式」と呼ばれた。最終的な決着は戦後に持ち越され1954(S29)年12月で「訓令式新表」として発表されたものである。以上これを要するに、日本語のローマ字表記には多くの共通点を持ちながら「ヘボン式(標準式とも)」「日本式」「訓令式(日本式とも)新表」の三様があることになる。

プロ野球の選手が着用しているユニホームの背には「背番号」がついているのだが、いつの頃からか背番号の上にその選手の名前がローマ字で書かれるようになった。このことに気が付き注目したのは巨人軍の王選手のもので「OH」と書かれていたからであった。オー・オウをOHとする表記には全くオーっであった。この文章を成している1990(H2)年10月23日、'90年日本シリーズ第3戦を全く別の角度から、即ち両軍の選手の名前がローマ字表記の何式で書かれているのかと打ち眺めた。その結果を公約数的に列挙すると、YOSHITAKE, ITOH, OHMORI, TSUJI, SHIOZAKI, SHINOZUKA と言うことになった。SHIやTSUの表記から見ると、これは明らかに「ヘボン式」である。「オー」だけは頭にあっても尻にあってもOHの「はみだし」表記である。大坂はオオサカでオウサカではないし東京はトウキョウでトオキョオではないが、オオ(オウ)もトウ(トオ)もローマ字表記では共に「O」である。「はみ出し」という言い方はでは少々酷である。OSAKAとかTOKYOのような知名度の高い名詞やHOKKAIDŌの様な他と区別の付きやすいものは、OSAKA, TOKYO, HOKKAIDOの様に長音記号のーや∧は省略しても良いことに成っているし、特に大文字のOに長音記号のーや∧を付けるのは格好がよくないので選手名のローマ字表記には(OH)の様な特別な表記法が取られたのであろう。大森常三郎先生も1975(S50)年頃はT. Omoriと表記されていたが1977(S52)年あたりからは、TSUNESABURO OHMORIとゆうようにヘボン式+はみだし式に改められている。ツネサブローの「ロー」をROとし、ROHとしなかったのはなぜであろうか。OHMORIはオオ(オウ)モリと読んでもらえるであろうが、TSUNESABUROではツネサブローであってツネサブローとは読んでもらえない恐れがある。

本題に戻って先に(「チョ」をCHOと表記していることに注意が向いた)と記したが、「チョ」をCHOと書くのは「ヘボン式」であって日本式や訓令式ではTYOと表記されるから、質問者のローマ字の表記法は「ヘボン式」ということになる。従ってオオハクチョウは、OHAKUCHŌ, コハクチョウは、KOHAKUCHŌとなる。

しかし一件落着きというにはまだ間がある。宮城県はMIYAGIKENではなくMIYAGI-KEN, 中野区はNAKANOKUではなくNAKANO-KUと表記する習わしである。したがってオオハクチョウはOHAKUCHŌでコハクチョウはKO-HAKUCHŌと表記するのが正しいことになろう。勿論OHakuchō, Ko-hakuchōと言った大文字と小文字との組み合わせ表記も考えに入れる必要がある。

ところがである。冒頭に掲げた「日本白鳥の会あたりが(こうと表記する)云々」との一節は削除しなければならない羽目になった。というのは並行して記述を進めていた「白鳥の嘴峰図に付いて」のために頁を繰っていた書物に、WHOOPEER SWAN Cygnus Cygnus <OHakuchō>, WHISTLING SWAN Cgynus columbianus <Ko-hakuchō>と表記されていたのである。その

本の名は A FIELD GUIDE TO THE BIRDS OF JAPANであり、発行者は THE WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN(日本野鳥の会)、発行は1982(57)年、入手は1982年12月13日である。同書のローマ字表記は Ki-renjaku, Shima-sennyu, Aka-hajiro, Zoge-kamome, Tsubame, Ajisashi, Suzume, Ryukyu-gamo, Mifu-uzura, Goju-kara などから見ても「ヘボン式」が採用されていることは明白である。外国人が読みやすいようにと表記されたヘボン式に軍配が上がるのも無理からぬことであろう。

大正生まれの私はSHI, CHI, CHO, JA, FUなどの「ヘボン式」にこだわるのだが、若い人たちはどうなのであろうか。SI, TI, TYO, ZYA, HUなどの「訓令式」のほうが抵抗無く使用できるのであろうか。

ハクチョウはHAKUCHŌ又はHakuchōである。従ってオオハクチョウはŌ-HAKUCHŌ又はŌ-hakuchōと表記され、コハクチョウの表記はKO-HAKUCHŌ又はKo-hakuchōで一件落着、とんだ茶番劇、お粗末の一席ではある。

付記 『マーク・ピーターセン著 続 日本人の英語 岩波1990』によるとO. E. D. (オックスフォード英語辞典)に拠ると1875年に jujitsu (柔術) などがある種の英語になったという。長音記号のーやハは英語の表記にはないから jūjitsu とは成らない。ちなみに柔道(jūdō)は judoとして1889年に、テンブラ(tenpura)は tempuraで1920年に取り込まれた由である。(PまたはBの前のンはnではなくmである。JRの女満別(めまんべつ)駅は(Memambetsuと書く)。ŌSAKAをOSAKA, TŌKYŌをTOKYOの様に表記するのは長音記号を付けても英米人には、発音できなかったからではないだろうか。とすれば、大森貝塚の「大森」はŌmoriではなくOmoriと表記されたのかもしれない。そうなるとオオハクチョウが英語化されるとŌ-hakuchōではなくてohakucho 或はohakuchoと表記されるのかもしれない。

屋上・屋を重ねる類になるが、学生時代に外国人が東京(トウキョウ)を「ト キョ」としか聞き取れないように発音していたことを思い出した。ちなみに、1990年秋の東京6大学野球リーグ戦の優勝校、立教大学のユニホームのローマ字表記はRIKKYOでもなくRIKKYOHでもない「RIKKIO」(リッキオ)であった。日本語のローマ字表記をヘボン式とか訓令式だとかとめくじらを立ててこだわる方がおかしいのかも知れない。LONDONに St. Paul's (寺院)はあるが Sentopōru (寺院)はない。(セントポールではハイヤーは動かず、スポンで走り出したのである。思いでの一つ)。

Oct. 25. 1990